

日本フォレスト(大分県日田市、森山和浩社長)は、新たに木質バイオマス燃料を製造する中津工場の建設を進めており、11月1日から操業を開始する。同所に1時間当たり30トチップ化できるドラム式チップパー「LB-620ET」を設置し、日量約200トの切削チップを生産。扱う原料は、全量を未利用木材由来とした。2021年1月から試運転を開始予定の刈田バイオマス発電所(発電出力7万5000キロワット)向けに供給を行う施設で、すでに原木の調達を開始している。

併設した屋内ヤードは、約1000トの木質チップを保管できる。原木をストックする第一ヤード・第二ヤードには、それぞれ約7300ト、約5000トの丸太をすでに調達済みとした。第一はチップ工場に、第二は山の中間土場に設けている。原木の集荷は、同社と住友林業フォレストサービスの2社共同で行い、中津市内の木材市場や素材生産業者、森林組合等から購入する。中津工場の新設に伴い、地元から6人を雇用した。同社は、日田市内でグループのグリー

中津市に木質チップ工場新設

日本フォレスト 11月1日から操業開始



山の中間土場に移動式破砕機を導入

ン発電大分が13年11月から運営する天瀬発電所の木質バイオマス発電事業を通じて、年間9万トを超える未利用木材を燃料として活用してきた。日田に続き中津

ヘチップ工場を建設するにあたり、森山社長は「中津の山は、日田の山の賦存量に近いポテンシャルがある一方で、林業従事者や製材所、市場の数は劣る。需要先

が一つ増えることで、林業の商いへの新規参入・既存事業の拡大につなげたい。中津エリアの林業復興・発展の一役を担えたらと考えている」と話した。

天瀬発電所では、トラブルのない安定した運転を続けており、年1回の定修期間を除く340日以上稼働実績を持つ。昨年9月より、グループの日田グリーン電力を通じて、

また、今後の展開として、「チップ工場をスポットに新設していくというより、広域的に山の中間土場の開設・充実化に取り組む」とした。同社が販売している車載式破砕機「LOG-BUSTER」を積極的に中間土場に持ち込み、現地破砕し発電所へチップを供給することで、破砕・運送コストの圧縮を図る。

また、今後の展開として、グリーン発電大分の木質バイオマス発電由来の非化石証書を付与した電気を購入し、全ての事業所(本社、本社工場、熊本工場、天瀬工場)で使用する電力を再生可能エネルギー100%電力に切り替えた。新設した中津工場でも、11月から再生エネ100%電力で操業する。(関連記事1面)